

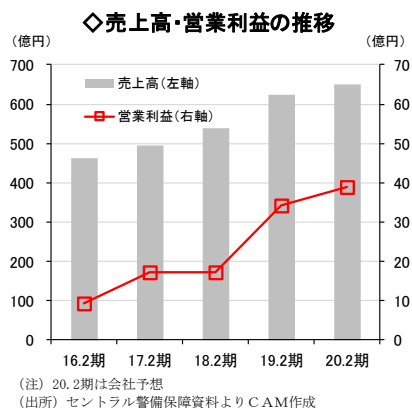
企業ニュース セントラル警備保障

(東証1部：9740) <http://www.we-are-csp.co.jp>

作成者：村上大志

鉄道会社向けに強い警備・保障サービス企業

1966年、創業。警備業界第3位で、筆頭株主はJR東日本。商業施設やオフィスビル、駅などの公共施設やホテルなどの宿泊施設、工場や研究所などの常駐警備が主力事業。1979年よりオフィスや個人邸などにおける防犯・防火の監視と緊急出動、画像監視などの機械警備事業も展開している。19.2期のセグメント別売上高構成比は常駐警備54%、機械警備28%、運輸警備6%、工事・機器販売9%、不動産・ビル管理3%。新中期経営計画では、24.2期の売上高750億円、営業利益64億円、営業利益率8.5%を定量目標とする。AIによる画像分析プラットフォームの機能向上やロボットを活用した警備サービスなどに注力し、労働集約型企业から技術サービス企業への転換を目指す。



売上高、営業利益ともに過去最高を更新

19.2期の連結業績は売上高が623億9,700万円、前期比16%増、営業利益が34億900万円、同97%増。常駐警備の売上高が338億6,300万円、同27%増と業績をけん引した。沖縄の海上警備や東京オリンピック・パラリンピックに関わるJR東日本向けの警備強化前倒しが寄与した。機械警備の売上高は177億7,200万円、同5%増。防犯カメラ等の画像監視サービスが堅調に推移した。

20.2期の会社計画は売上高が650億円、前期比4%増、営業利益が39億円、同14%増。G20や即位の礼、ラグビーワールドカップなどの開催で常駐警備の需要増加が期待される。また、東京オリンピック・パラリンピックに向けたJR東日本各駅の警備需要は高水準が続くと予想されるが、21.2期以降の反動減には注意が必要であろう。エリア・マネジメントの展開やオープンイノベーションによる最新技術(AIやロボットなど)の導入で、収益性の改善に期待したい。3月に監視カメラや通信ネットワーク機器を設計・製造・販売するCTDを子会社化した。画像関連サービス分野でのシナジー発現と、機械警備の拡販強化が見込まれ、業績への貢献が期待される。

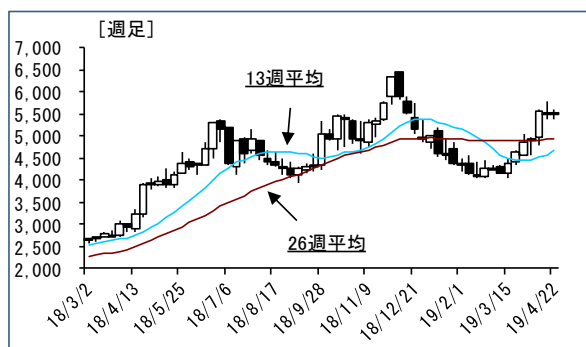
[株価動向・投資判断]

東京オリンピック・パラリンピック開催で業績の伸長が期待できる銘柄の1つとして関心が集まろう。

<9740 CSP 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益	1株配当
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円
18.2	53,714	(9)	1,733	(1)	2,034	(▲ 3)	1,345	(17)	92.2	30.00
19.2	62,397	(16)	3,409	(97)	3,709	(82)	2,222	(65)	152.4	38.00
20.2 予	65,000	(4)	3,900	(14)	4,170	(12)	2,550	(15)	174.8	40.00



[主要株価指標]		(売買単位：100株)
株価(2019/4/22)		5,470 円
年初来高値(高値日)		5,780 円(19/4/19)
同 安値(安値日)		4,045 円(19/2/18)
予想 P E R (20.2 予)		31.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)		1,573.1 円
P B R		3.48 倍
予想配当利回り		0.73 %
(1株当たり配当金40.00円)		
R O E (19.2)		9.7 %
発行済み株式数		1,482 万株